

INGINGMOTORSPORT

# NEWS PAPER

SUPER FORMULA 2021

P.MU/CERUMO・INGING Race Report

Take Free!

©INGING MOTOR SPORT Supported by WUCA Co., Ltd.

P.MU / CERUMO INGING Race Report Season 2021, Take Free Paper.

# 全力全開で 疾走せよ。

バトル

@Race Archive Rd.2 Suzuka Circuit

## 晴天の鈴鹿 Point Get!

@INTERVIEW

**Sho TSUBOI #38**

38号車 ドライバー 坪井 翔

**Sena SAKAGUCHI #39**

39号車 ドライバー 阪口 晴南

**Yuji TACHIKAWA**

監督 立川 祐路



Today's Race Rd,3

**Autopolis**  
**5.15 SAT / 16 SUN**

# 3



@Race Archive Rd.2 Suzuka Circuit

レースアーカイブ 晴天の鈴鹿 Round.2 鈴鹿サーキット

# 全力全開で疾走せよ。

開幕戦から3週間のインターバルを置き、スーパーフォーミュラ第2戦公式予選が鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)で開催された。鈴鹿サーキットの春の風物詩2輪と4輪の共演、2&4レースは、昨年はコロナ過で中止となり、今回は1年ぶりの開催となる。サポートレースが3カテゴリ、合計4カテゴリの大会となり非常に賑やかだ。約1か月半前に鈴鹿サーキットで行われた公式テストでは、チームも良い手応えを感じていた為、ここで最良の結果を引き出したところだ。

予選 4月24日(土) 天候:晴れのち曇り/コース状況:ドライ

15時10分、この時間になると日差しがだいぶ弱り曇り空の下で10分間のQ1がスタートした。事前に2グループに分けられ、トラフィックを避けた状態で予選が行われる。各組上位7台がQ2へと進出する。まずはAグループに振り分けられた坪井からスタートした。坪井は、ユーズドタイヤでコースインし路面のコンディションをチェック。コースを一周するとピットに戻りニュータイヤを装着して再びコースへと戻った。計測4周目で1分38秒041、5番手でQ1を突破した。15時30分、Q1のBグループがスタートした。ちなみにホンダ勢の強豪がこのグループに固まっていた。阪口もユーズドタイヤでコースインしコースコンディションを確認するとニュータイヤを装着し再びコースイン。先頭でトラフィックを避け走行する阪口。計測4周目で1分38秒267をマークするも残念ながら8番手となりQ2進出とならなかった。

## 坪井、Q2へ。

15時50分からQ2が開始された。14台が出走し8位までがQ3へと進出する。坪井は計測3周目で1分37秒502をマーク。しかし11番手となりQ3進出とはならなかった。今回のポールポジションは、1分36秒449。

決勝日、曇一つない青空に覆われた鈴鹿サーキット。コロナ渦でファンサービスに関してかなり自粛モードのコンテンツにも関わらず、9,500人もモータースポーツファンが集った。

決勝 4月25日(日) 天候:晴れ/コース状況:ドライ

## スタート直前 エンジンストール

決勝直前のグリッドには、ゲストや観客が動線を交えず入場を可能にするなどの工夫が施され、その時を待った。グリッドウォーク

が終わり一斉に関係者がグリッドから去ると、フォーメーションラップがスタートした。隊列がスタートするも、グリッドに取り残された一台のクルマ、それは阪口だった。エンジンがストールしてしまい、どうにか再スタートは出来たものの、ここで最後尾からのスタートとなる。決勝レース(30周)がスタートした。今回は、給油なしタイヤ交換義務あり。11番グリッドからスタートの坪井は、オープニングラップで7番手まであがる。得意なスタートを活かしそのまま推移。9周目、トップの5号車のタイヤがバーストして戦線を離脱した為6番手へあがる。10周でピット作業が可能になるが坪井はステイ。上位2台がピットに向かい4番手。さらに一台がピットに向かい3番手。坪井は14周目でルーティンのピットに入り8位でコース復帰した。

## 残り11周のリスタート

一方、阪口はスタートで、15番手と失ったポジションを取り戻した。6周目で36号車をパスし14番手へ。前との差もほとんどないが、まだまだ数珠つなぎの状態。10周で阪口を早めにピットに入れ少しでも上位に送り出す作戦を取るも、ピット作業にミスが出て16番手でコース復帰した。12周目で51号車をパスし15番手。フレッシュタイヤでプッシュし1分41秒前半で推移とペースも非常に良い。全車ピットを済ませた段階で12番手にあがる。18号車が130Rでスピッシュクラッシュ。マシン回収作業の為、15周から19周までセーフティカーが導入された。残り11周でレースがリスタート。ピットアウトして来た37号車のペースが速く前に行かれてしまい7番手でリスタートとなった坪井は、その後、オーバーテイクシステム(以下、OTS)を使い並びかけるが抜くには至らず。その後続いていた1号車がOTSを使用しパスされ8番手にダウンした。しかし、リバルはすぐにはOTSを使用できない為抜き返せる可能性があり、そのチャンスを待つべく、しっかり1号車に離されることなく行っていった。その結果、翌週にストレートからうまくOTSを使い1号車を抜き返すことに成功し7番手となる。残り10周どうにか7番手を守りチェッカー。4ポイントを獲得した。阪口は、リスタート後もペースが良く、25周目に3号車をあざやかにパスし11番手にあがる。レース周回が長ければさらに期待したいところだが、30周と短い周回が悔やまれる。ポイント獲得寸前の11位でチェッカーとなった。

@INTERVIEW

坪井 翔 38号車 ドライバー

## 我慢してついて行けば 翌周には抜けるチャンスが来る

スタートが良くて数台抜いて、そのままレースが終わってしまった感じです。そのあとのペースが良くなかったですね。周りがピットに早く入り、フレッシュなタイヤ組の方が格段に速かったので、チームにピットの判断をしてもらいピットに向かいました。セーフティカーのタイミングでピットに入ったのですが、後ろにいた宮田選手が速く前に行かれてしまい、リスタートの後のシケインで数台が固まっている中で山本選手にOTSで抜かれてしまいました。抜かれたタイミングでは自分はOTSを使っておらず、我慢してついて行けば翌周には抜けるチャンスが来るので、アウトから抜いていって順位を取り返すことが出来て良かったです。予選も決勝のペースもよくないのが課題だと思いますが、ひとまずポイントを持ち帰ることができて良かったです。



阪口 晴南 39号車 ドライバー

Sena SAKAGUCHI #39

## ミスをゼロにすることは無理でも、可能性を下げることはできる

スタートを狙っていたので、ホイールスピンをさせたりタイヤをあたためよう意識していたのですが思いのほかタイヤと路面がくっついてストールしてしまいました。自分の考えが安易だったことは反省しています。ただ、クラッチミートがとでもよく、スタートで最後尾から予選順位くらいにポジションを挽回することができました。そのあとのペースは、タイヤが若いうちは追い上げることができたと、ブレーキングも自信がありシケインでは良い攻防が出来ました。ただピット作業でミスがあったのは残念です。よく見る光景ではありますがゼロにすることは無理でも可能性を下げることはできるのでチームと話し合っ行っていきます。失うものは何もない位置からのスタートですが、上位を争っているときに起こらなくて良かったです。順位は良くないですが、これを糧に自分の視点からも出来ることをチームに働きかけていきたいと思えます。あと一歩でポイントを獲得できたのですが、それに足りる速さはなかったと思います。



立川 祐路 チーム監督

Yuji TACHIKAWA

昨日の予選の結果を受けてクルマをできる範囲で変えて決勝に臨んだのですが、坪井はスタートで順位をあげたので、さらに前を狙っていたのですが、クルマのペースがトップグループに追いつくほどはなく苦しい展開でした。それでも最後までバトルをして、どうにか7位をキープし頑張ってポイントを獲得してくれました。また阪口は、フォーメーションラップでエンジンストールしてしまい、最後尾スタートになり最初から辛い展開になってしまいました。スタートでは15位まであがりそのあとはいち早くピットに入る作戦を取りましたが、そこでピット作業にミスが出てしまい、良い流れに乗せてあげることはできませんでした。残念です。シーズンオフのテストが良い感触だったにも関わらずここ2戦、思い通りの結果が出てないので、立て直して次のレースに臨みたいと思います。

To be Continued...

Results 38 予選 11位 決勝 7位 39 予選 15位 決勝 11位

Today's Race Rd,2 — Autopolis 5.15 SAT/16 SUN